

# 逗子の景観まちづくり

## 瓦版 第八十九号

### 小坪漁港の稚鮎漁

自宅でもある南町テラスからは小坪漁港が一望できるので、ほぼ毎日、海を眺めて過ごしています。



稚鮎漁小坪漁港夕景

二〇二六年一月十五日 次号は四月発行予定  
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課  
協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会  
募集 逗子の景観スケッチや六百五十文字以内の  
景観に関するコラム等を募集しています。

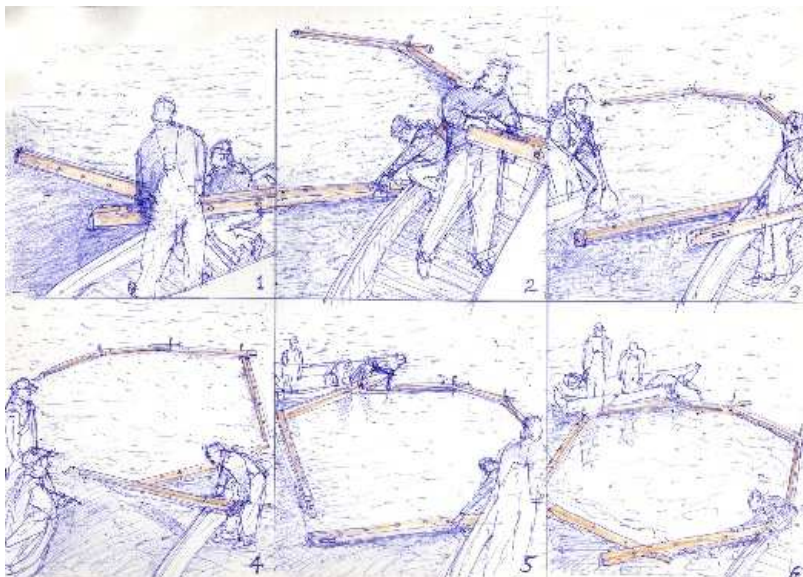
二四九・八六八六  
逗子市逗子五丁目二番十六号  
「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」  
電話 〇四六・八七三・一一一一  
ファックス 〇四六・八七三・四五二〇  
machi@city.zushi.lg.jp

ある年の2月ごろ、そういえば毎年、この時期だけ港に不思議なものが現れるのに気付きました。直径10メートル以上はありそうな複数のリング状の物体が小坪漁港に浮かぶのです。それは稚鮎漁のための生簀でした。相模川漁協の漁師さんたちが、稚鮎を捕獲し相模川に放流しています。

鮎の生態は不思議です。落ち鮎といって秋になると川を下って産卵し、河口付近で生まれた稚鮎は、さらに海に下り、海洋プランクトンを食べて冬を越します。相模川を下った鮎がそこから20キロも離れた小坪漁港にも来て冬を越しているのです。

海上で組み上げる生簀の仕組みは素晴らしく、緩めのホゾと丸い棒の楔だけ、全て木製の部材だけで組み上がります。一本ずつ材木を海に浮かべて繋いでいき、八本目が繋がるとリング状になって安定します。そこに楔と同じ丸い棒を立てて網を引っ掛けると生簀の完成。あつという間に組み上がります。天然の木材と漁網だけを使った、素晴らしい知恵です。

全く同じ生簀が三浦市の金田漁港でも使われており、この夏、三浦海岸アートフェスティバルで生簀の材料の角材を提供していただいて長さ60メートルのベンチを作りました。このストーリーは逗子



海上での生簀の組み立て工程スケッチ

文化の会のニューズレター152号（2025年10月15日発行）に写真と共に掲載していただきました。

文・絵 日高 仁



## 第2回 まちなみデザイン逗子賞のご紹介 条例部門(表彰)



ホームページからも  
ご覧いただけます↑

市政 70 周年記念における取組みとして、表彰制度「第2回 まちなみデザイン逗子賞」を実施しました。今回はその中から条例部門で表彰された3件をご紹介します。



### かぐのみ保育園（沼間2丁目）

外壁に自然素材を使用したリズム感のある形状の建築物。建物全体のボリュームを考慮し分節化の工夫がなされており圧迫感がない。敷地内に方位、密度をよく考えバランスよく植栽された多様な樹木は、閑静な住宅街の周辺景観と調和し潤いを与えている。保育園という用途を考慮した楽しさを感じる。



### 鈴木屋ビル（逗子5丁目）

オープンスペースと緑化が効果的に配置されており、テナントのしつらえも相交わって商業地の賑わいに寄与している。敷地の角に配置したベンチ付きのシンボルツリーが効果的に景観に寄与している。屋外広告物に関しては無秩序にならないよう集合看板を設置するとともに、色彩に関する配慮も見られる。



### アルカディア逗子（逗子1丁目）

1階部分にデザインの異なる小さな店舗が集合し楽しい印象となっている。2階以上のオーバーハング部分が庇の役割となっており、歩道から後退したオープンスペースが人にやさしい歩行空間となっている。隣地の公開空地（民有地）と接する植栽スペースは商業地におけるおい景観に寄与している。上階は共同住宅となっている。